



名冠附名取杖 全

3869
94



3869
94

名冠附名

吟附取

利
3942
巻 28

二星書屋



大正七
室井平藏氏贈

名冠附名取之津糸



和田麻貫撰

一ツ以柳ノタ刻ノイキ

海

ちのち柳ノんとつりや摺しん

結ッて

糸ノ子垂るさく鷗まへのも

きみさかあ

オレのさくらんさ好トヤトイ

延

りしと風を巻くて寝る傍ろ
又きと成し

世帯 仕事はる仕事せんろ

照るてし

急ぎが子と漁しやナア

練のま業

汁掛ちりんがガサめん下

おくわしよる 海イ指せ

とよナと成し

どんふやり脊中 寝き付る

そであひ

涉がおまこつとんと来る

たのしみ

續ちどろがわりし

つくり役しや

ふんでコナイお女し

十か

まきや海を引くまで引ぬ

一本道や

ふくし火鉢の石を折る

まきし

味シ合イエライカの張リ

アッ

吾トヤとあり入ちど

返編

習ロ〜斗リ 皆ナ沙画

世の延

私イラ紋日あひ 方フダ

おまへ

明トヤ有ツりのクア

か

シ〜ドヤカウ〜

〜よ〜

能カらんおが流リルナア

〜足通〜

礼シかけよる 玉まめ

大將

ち〜有るビラゲハツ橋

阿んちんおふおらん

遠のれぬ

毒情小阿のひ

淋ナしう 裏小ウラコ 善タカラそハテヤ

何ナニ中ナカを中ナカ

チヨツコラちうチウニニ三サンツツををももも

交マシもも親ウタをを

隣の内ナリノウチハけハハあんアントヤ

千秋乐

よヨ小コ刺サシきキあア〜〜甘アメあア〜〜

切り切キリキ

好コトキキあア〜〜春ハルムムウウ能ノイイ〜〜色イロ〜〜

ほホ〜〜

正マサシシ始ハジ末マツトトヤヤ中ナカ中ナカ中ナカ

笛フエ主ヌシ子コ〜〜

出デてテ来キりリママよヨ小コ茶チャ飲インみミ〜〜

ふフトト

巾フキ乃ノ塵チ小コ未ミ生シ詠エイウウ

うウきキ〜〜

日ヒ乃ノ出デぬヌきキ小コ月ツキのノどドどド

若ワカイイナナヤヤ

まマ〜〜名ナへヘぬヌワワ足タラシ之シ元ゲントトガガ

繪エとト書カキてテ

糖ツヤのわらわど糖ツヤりさん

酒きけん

急ツヤマ〜と子ツヤまりさり

小迷ツヤイ

帝ツヤラ吹クまうり好風ツヤる

眼ツヤをふぎだ

隔ツヤとぶら〜小ツヤを第ツヤの

舞ツヤの振ツヤり

演ツヤ小ツヤ列ツヤ〜現ツヤ〜

あツヤイツヤそツヤ〜

石ツヤ乃ツヤけツヤ〜足ツヤ〜の

恩ツヤとツヤあり

人ツヤもツヤ能ツヤべツヤ〜下ツヤ夕ツヤ乃ツヤ枝ツヤ

思ツヤひツヤつツヤ〜

節ツヤ〜のツヤ得ツヤ〜有ツヤ〜斗ツヤり

初ツヤ音ツヤ

ふツヤあツヤいツヤ〜十ツヤ儼ツヤりツヤ〜々ツヤきツヤ日ツヤぞ

一ツヤうツヤ〜十ツヤまツヤぞ

女ツヤのツヤ〜ふツヤ〜そツヤらツヤれツヤん

きねの

小糸よふ小舞うつより
傍り斗りしや強さの

立流

志して果しおその口を

エニヤ

おと方ぐぬいひ巨燵

あふ付いてるどろ代イが

殺生ヤの

明イてあつるお洞窟

暗

あつありお歌お

あつありお歌お

あつありお歌お

あつありお歌お

あつありお歌お

あつありお歌お

あつありお歌お

あつありお歌お

あつありお歌お

つふふりく

おころふらんとお一人け

付あん

後が癒トあいの何ニ喰くも

か合

色るーとん 癒とどや有る

正福

猫コ足しへ足袋さうー

リウ

湯気が立ウナア合おる

ゆーく

ア 暖くも 八 後 領ウ

先く

嘗ス今レ 後 谷

聖

おーい 花トやが 延ヒるギ

そ

極本 冠子ヨット 退イ

め

け方ハ

ほろおひ

人のまゝが 人をあひ

おひ

赤いのお景 下まひ

たの

コイツ 土用と越るス奴

月

波が ちの 横の方

浪が

お 後 常 小

ほん

お 小 大 キイ 用 買ワ

習 是

神 棚 ち

あ

越 後 越 ち

音 魚

赤 一 つ の り が 赤 白 の

い

あ

坊主小八巻

掃除と云へる ありきや

と云ふなりと

かろく 何れぞかろく

何れぞかろく

後賣よりと云ふ 節の

恩ふ云々

将レ獄ゴク相ゾウ小おまへ

その上

麻あらん 節エどうら

将クあり

換レト巾を洞四投イ

何れぞかろく

勢セウのりノリの状シヤウ張テウレ

交々を小

け方ら 於麻ハ妙々

心の内

予 亦ア 振テレ 呼コレ

きん 真マコト 小

は 修シユ 下ゲ 糸イト 羽ハ へ

ハバキハクシ

丹を乃風吹カ

中ノ

手性ノ

氣さん

家根も鬼の

殺生

子拭イ被

大内

んせ

歌キの

看ガ

あんの

海キ

ヲイ

成ル

以

酔ん

向

馬

よふはあきれ笑らるるごと

類ニテあり

マアむけかしの日海りら

ゆめを憎ふ

後うはまふふよ殺フへのり

徳

まげんごかんせ綱カ十タ鹽シ

よふ利クナア

所ロも選エらるる若カズシヤシ居ルセ

かゝるる

かゝるるゝナア果ノのぞ

マアゝ安心

まのぞり吞んで仕舞ハこのぞ

どりコリ

エライ 糸綱ナアけ搦リ

流下掛あゝゝありヤヤ利トヤ

ニヤレガカズク

減コト小 露露拂ひの通チナチ

あんきまあ

飯ハも喰ハ入入得得乃乃ちちうう出出セ

絶系ノ

安イりんナア 盃船子

姫ハ

ミ集乃方を入る至コ

コイ付コウ

結ユとス〜も始々らん

爰でコウ

村乃奴ウラ小己レの智

己海あふ

セリ〜 儲ケまらん 登コリ

引たり

意〜乃ト中ワイを 杖ガ

羽織と忌俗小付〜カイ

家〜ハ

子糸帯を穿〜ハ

唇も有カ

ワ〜の〜あ子あ〜

中〜

〜中〜小珠数〜

可ク内達

按州アキノウ以ヨリ出デるル者モノハヒトフ

予オレんノ心ココロハ

陵リョウ子シをシめル乃ナラチニそノ入イル

氣キ色シヨククガ画エイ

歌ウタハ止トカクんガ子シ所トコロコノ

今イマ性セイ根ネ

多タクク付ツキ傳デントク也ヤ板イタ乃ナラ間マダ

画エハ土ツチ佐サ家カ

古コ風フウ俗ソク亦ナラんガ女メ中ナカ

結ムス搦ネハ

遊ユウシテ居イルル者モノハ未イダニ知チラズ

端ハタ々々小コ麻マ子シ乃ナラチニ旗ハタノノ也ヤ

壺ヒラ無ムクク

其ソノ心ココロハ家カ徒タとシおオシタトク也ヤ

心ココロハ

空カラトク切キレテ果ハシテ工クおオシタトク

怖オソリシ

聲コエカクんガイノ聲コエハナ

知チルルはハ川カハ端ハタハ

是コノ方カタトク也ヤ

その方も「子」を「し」の「授」

水

芝居が「う」の「入」の「と」

うのうのう

そふが「ん」の「う」の「う」

頓

思「い」の「う」の「う」の「う」

己「し」の「齒」の「け」の「て」の「う」

綴

高「き」の「夜」の「強」の「い」の「ふ」の「八」の「月」の「く」の「ハ」

ぬる「ん」の「ん」の「ん」の「ん」

由昔

け「ん」の「ん」の「ん」の「ん」

うけ

う「ん」の「ん」の「ん」の「ん」

左「ん」の「ん」の「ん」の「ん」

うけ

お「ん」の「ん」の「ん」の「ん」

延

ヤ「ん」の「ん」の「ん」の「ん」

おりのひ

糸の方お備し中といふ

将ふあひ

さゆ家 我まふ休く

細子命

石板トヤサヨク

石付

どうらく 家入いほよあか

あうあひ

だんあいとヤナイ知らん

何のふと

今言々 炎斗の麻具波比

ま

昔 一 お糸をへん

レコ次

ちやく小き 赤娘トヤ

あんとナト

吾地も 約しん

ニア

吾利も 吾いせまん

いよゝめ
さくらがよん

一人のあゝおはまら

アキラだ一編

トキ
あゝん子持どやタニナカ鏡丹へ

つがんで

それがいーカチ鼻と二役どや

だまろくを

此君の子持を好む

けのねん

男小赤一のうらみもの

藤ノ巻

味デ合イがわからんを

けれどナア

そつおふりカウつふもみ

ふけと思案

眉毛マユケのうぶくちんを

好キデエナ

物モノスカそまは風名だけ

障サカり三百目

下コ接らへトや此方の鼻

○十

アイ 抱^かクカイ

浪^{なみ}ダ打^うチ

覺^{おぼ}ス^イ安^{やす}ス^りん^の強^{ちやう}投^{たう}

圓^まみ^やげ

拾^ひ口^{くち}と^と夫^おと^と出^いて^てチ^ちヨ^よト

か^かく^く

お^おり^り居^いへ^へる^るひ^ひ付^ついて^て居^いる^る

ど^どろ^ろ中^{ちゆう}に^にも^も一^{いち}子^こ随^ずい^い小^{せう}

惠^{めぐ}方^{かた}乃^の方^{かた}

モ^モス^スコ^コ一^{いち}ギ^ぎト^とや^やお^おの^のと^とは^は

位^ゐイ

中^{ちゆう}ま^まし^しり^りん^んど^どや^やお^おの^のと^とは^は

花^{はな}の^の濼^{たに}

ア^アノ^ノ夢^{ゆめ}メ^メハ^ハツ^ツイ^イ覺^{かく}メ^メと^とし^しふ^ふ

酒^{さけ}き^きげ^げん

片^{かた}紙^し小^{せう}向^{むか}カ^カイ^イ眼^{まなこ}と^と居^いエ^エる

玉^{たま}小^{せう}疵^{きず}ア

眼^{まなこ}く^くめ^めけ^けと^と鼻^{はな}へ^へ出^いる

心^{こころ}深^{ふか}い

糸^{いと}ん^んど^どの^の端^{はた}と^と針^{はり}と^とあ^ある

宵

大キナ程でをしでまきう

惚おし〜

マア有りやせんぞドモあうや

触ふと知し

きよう〜うせふはとふ〜

きびの

業わざよりのもりより

ん〜

鼻はなふうけらるチト程と

うさんおぬッ

おんどや白しろいやうで黒くろいやうで

きい〜

今いまおの〜の病びょう〜おませ

文ぶんア〜

えつてゑえ寡かさんどやあん

ひのらうと

嫁よめ女の〜の傍そば所ところコで

浮うき〜

登のぼり〜とけアノカラ尾び

唇しやけど

唇しやけどふううまね

つも

折角人小強ワ〜

相合と

以方かろもまね初うま

出語りトヤ

友之續しで飛つ初晩小

喉し〜

う〜身とナアうか〜

ふと紋

ナレ〜らん家男コ〜

もね

その〜乃家う〜んとま

果を鼓

跡り〜ひワイ 小餅

系層ぬル〜へふイ

お望〜

そさみ 上〜 右板の小

身上有切

録ナト焼イテ仕舞て止テ

かゝる

り人チヨビツトでーし中んやせ

際ふあり

予後ろ減し一内隠居の

まゝり居り

そまの唇久さゝる乃

ひまろり

ゆころいとお終そゝるまゝ

會席料理

聲号乃類くかゝる茶

よゝる

いゝいゝまはお二人

本ろ久

私タしも始末こねる

いぢらも十分

侍チく一乃終新フ

後へも結めし一茶籠うも

まんぎ

そゝりふ其付乃

留まらぬ小う

灯も消さぬふくく麻を

遠く

汗もあせりや想ひ

加減

こそぞやうをのびしそい

冠り

えつと砂トヤ下駄出ケラ

泳ハ

おきんう操の汲物と

のよぶが智り

けしとんくつイよん方ダ

あつぽり

きくあひびつぎ上布

のしは舞のんうんくすいダ

おん

よし禁イといこ風

とんとあひぬ

兄ニよあ月ちダ 赤レウよ

勝子ダよ

風呂屋をくまはつて買つてくると

坊子ガ明キ

唇口ありまゝと据棚の

三

竹をまゝりて奢ゴリ

初

買つてや成るまゝおんあつと

おんあつと

子ヤリおもてんおんあつと

顔ハ深イ

私—の心はあんなとア

あつと

おんあつと小白酒や

あつと

藝もあつと酒もよふ呑マ

あつと

用が有りやお娘小うせつクセ

業平そと退

一ツお娘のやそふを

あつと

内馳走チサツふと何と赤い乃を

面白オモシロイ

骨柳コウリウの飯イしてかき控コる

一服イツブククシヨ

アツクアツクううふ家基イトヤワイ

酒サケで出デる

月暮ツキクりり成ナるると病人ビヤクジンさん

入イレ物モノトヤ

み尺ミシクの内ウチふふ曲マ百ヒャク曲マッ

月ツキありりと

春ハルもも大オホイイふふとと桃モモ山ヤマののも

小夏コナツキ飯イだけだけ替カへへお赤アカ

お二人オニタリり連ツれれどどお隣トナリりの

昔カふふああん

どどろろととよよいいトトヤヤキキウウケケリリダダ

放ハナつつののおおのの月ツキ

盤イタののいいろろぬぬややううふふととりり

今イマがが盛カるる

今イマがが盛カるる

今イマがが盛カるる

チヨクウラチヨクオ田ノホヤ

濃イ

どけいりまそふ猿橋小

張ふんご

燈上切目トヤラり紙の

空射しつゝ

馬入しやさんキジヨをわう

あう

乃燈上チまた下戻り

夫イがみんら赤イのと

あつ

色上チ出くる漆もの

下張

あませうふん 巾着うら

尻りニワ

猪口すでマテ織るカマワイナア

つらう番張

コレでしる後へまゝおせ

お月お交

あゝの響りもあうはる

つとむと

隣りてあちちの向いでんせ

つとむと

おあまふとれん ちんちんへ

健ふと

前うへん ねとへん

黄

三味線きりまふ抱かへ

白

ニユツト出さうりへん 舌つと

月

斤 新トやお里への

本

子 鞠うほへん がる 若トやまご

金

鳥帽子を買イもてん 小

雑子も啼まば

子ヨト へん 御用金

子ヨトの毒

ちんちんへん 茶所の傘

三ノ

コレぞ女^{メウ}夫^トの口^{クチ}数^カツも

へげ〜れり

何^{ナニ}が^ガあり^イぞ^ゾ今^{イマ}お^オう^ウう^ウ

吟冠附集

兵庫 雪先菴素洲撰

いそ〜い

子^コが^ガあ^アま^マあ^アる^ル程^{ほど}に^ニお^オも^モれ^レぬ

危^イも^モあ^アも^モゆ^ユけ

お^オう^ウ〜か^カう^ウを^を今^{イマ}も^モも^も〜

乳^チより^{ヨリ}吞^ノり^リ外^{ソト}に^ニカ^カ〜

う^ウ〜も^モち

校^クダ^ダを^を吞^ノる^ル人^{ヒト}切^キり^リ落^ツ〜

夜^ヨが^ガ明^ミる^ルまで^{まで}眼^メを^をふ^ふ〜

あ^ア〜や^ヤ〜

引上りられしおきし
際よりいふきゆる雲

鼻ハナのノ

夕立ふ一人う傘カサを

橋ハシかき

まよわしつらんう清キユらげあ

かきぞ持カキしきある掃ハキりし

糸イトと定サダメメル雪ユキ解トキすの

蕨ワケ留ドモし

小姓カホ乃カホ蕨ワケり乃カホし土地

情ニガまねま

皆みなんふしづき摺すりして居ゐる

一いつつ建たえど塔たと組くみみ

小ここほや

己おのれれ小こ河か和わ中ちゆうののあは

焼やけとお歌うたくききき持も

何なにしもの仕し事じと河かりすに

彩いろ平へふふふふう波なみあさぬ

云いハゆり能のうと白しろい

志こころモフ

滑なりさうと孫ひこ酒さけしやそひ

引鶴とあり雛育ち
汲み水もお柔とつてくそ
鷺鷥も今川と麻の
柳ち〜〜とてあれ
時津風
も来も武藏野へとど
は進〜〜とた

羊う糸

面白ひ水が遠く〜あ
よ〜れ〜〜と吐き

あふ配刻も伝る中
泣かせ〜〜と娘
切〜〜久謝ふ〜が
〜〜とけとや

〜〜と志中〜と
あせとや

どんと呼〜も命入
智恵う〜

山へおり付る月
明り
減りあ〜と
好〜と
乃
何

秋をく

種が能いので米小籠

まんじゅう

信うけ言妙へあさぬ

かきく病るるうけふ

船のふえ小舟がそひ

おぼろく付くももがオケル

りどりの指も輪が合ワぬ

きざんよう

あゝの誓りもおまわり

月

鶯の 秋の 味がみん

盤の 月の 沈確が

る風の 吹く 研工 跡り

根こふま

日の香を日ふと

目がら

お小や 舞小 歌らるも

買らぬより 買らぬ 付ら

自由自在

地紙のしんち繪も書さ

眾も報ひも

かきくくくくくくくくく

きげんよよ

何も佛が玉あり

かきかきかきかきかき

まき

ひるん写もあひ柳屋

月

余のハ唐子の夏も録ぬ

礼

初更士の皆裾控振

まき

融道ウグあまリヤ湯もたぎり

實不見ゆ

自小お浪行治さ

斤忍ひももももももも

夫婦中よ

分りく実込ヤウにと強

笑まあくみ

死をば使へ、白くもせぬ

照月曇るらん

邪イがんで居まは二市を

揮カシより憂るユサシ持来 秘

浪風あり

川へ流しそ 笑ひ合ひ

尺ヶがほろりわと おくびすも

棄シてしとらり

ホレ 空理いそぬ お若さん

ハテ合無行かぬ

お休がそそれそ 海へを

旦那さんらん又撥ダチて

気が掛ひ

室下 疾さ風是るふじし

つたけ

真如さんそふへ 此家進を

比川へ

非取を みる 非の浦

衣相く

神代へ 渡る 羨小帯

何れもつら

貞柳のそ由縁さへ

晴切つら

断り皮入ぐきひを

はるあまの

ふふ鐘こも放こも

ゆふせつこも竹の道

恩ハハ

あふこがきけりや日無しぬ

送るもつら

是元也一いつり入し

振見もそぼと灯をこも

あどわし

こふふ放こもつら

送るもつら

白い合せて捕りつら

花か

吾ひ乃て面白き

かみかおまふ

男が喰らうや志ません

鳥後羽織 忌々 出直し

あつらひ

たれが 藤下を 破つての 下や

たまひ

おろも 晴すし 又 内も

あさけ するん

梅子 又 花の ちり

子 ぐあ 泉の 温泉 有まふ 花

眼目も くらん

和樹 道へ 通り しまひ

あつらひ 一筋 一

あつらひ するん

梅子 又 花の ちり

あつらひ

藤下 破つての 下や

あつらひ するん

あつらひ

あつらひ 赤ひ 日の ちり

あつらひ 仙人 小巻 花を

浮世の 車

かろげと尻シグウくハげキ

乃んニんンどウくク

臨も本縁も湯のニすル

羊の耕切りやぬとキ

煙ニまシくク山ノくクくクかキ中ノ

船ノト小問ノくクくクくクおシ果ス

和ニくクくク

私ノレハ大ノクク中ノあハけキまシとシ

おシくクくクかキあハけキ深ニまシぬク

家ノ外トやハあハくクあハくクんンけキとシ

きキんンくクおシひヒやハけキまシんンのノ

向ムくクぬク舌ノグク味ノ方ノまシるク

眼ノグク鼻ノまシるク

白ヒとシとシまシくクあハくク

一ツ束ノのノあハくク肝ノ決スくク

宿ノくクくクはハれキとシ荷ノグクまシひヒ

りリまシるクあハくク麻ノもシまシぬク

比ヒ翼ヨク連レ断リ

けケ令ノ物ノグクまシくクくクまシぬク

是レ竿ササ上ノくク小ノ仕シくクくクとシ

灯の等小照り針小照り

老人の心

他人の心と人仕と

龍耳ワシガの心と

縁起エトキの心

心と佛の心

心と袋の心

送オクりて成ナりお帰カエり

風邪カゼ引ヒかりより扇アヒ志シて

幸サイひ

糸をたぐう

海小波の浪

爺オヤジの心

揺ユりぬ振フルり

琴コトの心

袋フクロの心

心ココロの心

極ツク楽ラク

漬ヅクりて

心ココロの心

狹く 深く 百姓の

泣き声

ツイ門ドも 出魚

魚

向ひも 船が 早入 成り

清め

高世の方へ 烟小

方

酒屋の 拂ひ 付く 至るや

此方 画も 画の ともど

北山時雨

押と 出は ありの

糸より 小供も 遠くより

能之 伸り

初物 備え 妻と 行り

根の かん

あふ ちや ちや ちや ちや

大 天物

新調が 鳴り くる 記し

初りの 松茸 と 作り

隠きん坊

才 割^コワ 匠^ク子 買^ル少^ク身^ヲ

落^キ子^ノ心^ヲ

魚^イ 一^ツ子^ヲ 風^ハ入^ル心^ヲ

よ^ク 浪^ノ子^ヲ 持^ル心^ヲ

是^レハ

積^ル 咄^ノ 心^ヲ

冥

掉^ル心^ヲ 依^ル心^ヲ

依^ル心^ヲ

總^ツ心^ヲ

二^ノ心^ヲ 針^ノ 安^ト坊^ト

及^ビ心^ヲ

飲^マ心^ヲ 始^メ心^ヲ

始^メ心^ヲ 始^メ心^ヲ

閑^カ心^ヲ

笑^ハ心^ヲ 乃^チ心^ヲ

よ^ク心^ヲ

手^ノ心^ヲ 持^ル心^ヲ 厨^ノ心^ヲ 姥^ノ心^ヲ

元^ノ心^ヲ

〇三

〇三

買入の門ふらざんて

そののど

神楽まはりの光さ

根めり

海山へ舞入明々鳥

業種を耐へて在祈者

正例

袋へ漏れぬ実らん

運入

目も踏く不二の極小

よふ減りりの腹斗り

喜ふ成りもまのふ

昔のふ世界

如く一日まふ張り

陰と鳥が赤梅

勢も

今橋ふみえ阿弥陀池

自由自在

業花も那那も業

酒屋のちりてまひいど

仕合ヤドヤ

今の名家の元ハ
園ウウウウウウウウ
たりふ然我池の神

らうの燈光で

十両もさる根付提カ
アノ清姫と蛇ガ日でも
器ハ木の紫月の燭

江戸の子をい

あひうけあふ股

堀乃向ふふさ地あふ

納付の

サア多知さん百おさん
秀造の門ち運り冬

出来ま

サア隣の藤子さん

福うう日

成物ふの

あくま

於うう木骨と芭蕉

あふふもを履きし

まふふもを履きし

安ん

たふふもを履きし

比も

たふふもを履きし

たふふもを履きし

たふふも

たふふもを履きし

運盛

見付し 病る 帰る 死

仕合

為小 一ツ目 沈ん

何れも

報し 小や 病る 死

病る 小や 病る 死

病る 小や 病る 死

病る 小や 病る 死

病る

病る 小や 病る 死

と申す方々の御事

すつて

沖引ぎ〜よみ吞める

お物もふも今物ら

烈正

物壁トらんき 土方ハ

女月

送つ〜りら〜るる

沢山

下も家お方小お〜へん

何とあり 事もあらむの

程の筋も家月 喰ひ

借〜も〜も返尺のハ

あつた〜も〜も

借も〜付〜

以程の大層なヤせんを

為思ひ

軒キハ中月燈明 上々

折ふお事の言ふも

是も示しと尻中カぬ

心より素直の方とぞ

恋ひ

古ひ暖簾とぞよと

糸色を眺む

まとの傍へアア居り

和

初めしうおほり

恋

今も一の谷

恋

お樂ん思 正月を

留

邪がんとりのり

幸ひ

顔くく少女

思

暖簾の幅は

吉野の二月

お茶はぐり

春

去こくほんつひそこまそ

糸色キと赤肥ハ

伽羅カも 香カ煙カうカ神カうカげ

乃んノどりリと

扇セ子シのノ孔コ小コ出デくク捨セくクひ

留ルくクぬヌ影カゲのノ列レツひヒ定テイひヒ

組ク上ウくク

下カ崎サキ打ウチのノ利リくク棟トウ

ノ式ノ百ヒャク十ジュウ句ク余ヨ

附日新集

浪花 服田素閣撰

高根の石

三日ハ 齋サイ 結ムスくクアアくク

掃ハへヘくクおオゆユ尺シツ子シ 透トウキキの

琴コトでデおオ考カウハハ皮ヒイイくクも

長チひヒくク

あアんンふフ穂ホがガ出デくク糸イト纏マりリん

ちチよヨくク紅ベニ紫ムラサキふフくクカカ子コ

雇ヤ伸ノくクくクハハナナアイアイツツ尖ササテ

ゆユんンぞゾくクつツきキんンもモ赤ベニくクぬ

馬ハ土作繪

〇四十四

物サも山子入五子ん管
~~~~の葉店小葉~~~~の

神ハ正道

以氣の海々子を宿へ引コ  
一ツ 睡エ~~~~世 焼キ印レガ

お忍様家歌

とまねんカイおキヤトお乳  
夕ア 被ッ~~~~り 己リヤ土靴

~~~~

~~~~のおまじやへ可あまら

笑ッ目ろりやど始末~~~~

~~~~

あんと強ん下海子んを
送~~~~上~~~~果~~~~

~~~~

おまのりアレタ 由のケ  
派石~~~~親父~~~~

~~~~

りう宿~~~~あまらりカナ
善地~~~~飛~~~~で 由~~~~モノの

桑原君の志らう 邪^ヤ作^ハとる
己^コレガ 咄^ウキ^キと^ハ 嘘^カと^リ

やんおマア

うらうら〜 汲^ヒで^テ 弄^ウり^の
私^ワタ^シが 老^コ老^コと^りの^ハ 玄^ソ白^{ハク}
細^アホ^ドや 赤^{ベニ}智^チの^ハ お爺^{オヤジ}さん

瓜田の屐

清^ス肉^{ニク}子^シの^ハ 時^{トキ}キ^ハ 小^コつ^ツり^の 又^{マタ}
代^ト判^ハに^シ 仕^シり^ハ 安^{ヤス}い^けど

何^{ナニ}が^カよ^クか^ル

白^{シロ}ら^の 肉^{ニク}を^シ 肥^ヒて^ス

ど^トろ^ろ お粥^カと^りを^シ ね^て

今^{イマ} 治^チす^を

何^{ナニ}の^ハ ち^チと^り 嬰^{オウ}と^り お^お〜^ひモ^こ
知^チ〜[〜]と^り 成^ナる^を 何^{ナニ}の^ハ 時^{トキ}ど^ろや
〜[〜]や[〜]お^おの^ハ 色^{イロ}知^チ〜[〜]る^ど

吾^ワら^ん せん

旦那^{旦那}さん^も サ^サチ^チ 夫^ウと^り 夫^ウと^り イ
小^コま^まの^ハ 筋^{スジ}〜[〜]や[〜]ア^ノ 家^カ形^{ガタ}
う^うけ[〜]〜[〜]ま^まの^ハ び^びど^ろ 夕^タア^カが^ら

オ、婿

言ひあれ〜 言ひ方ごと
婿エハシ 秋夕イ夏の栞不

ありひ〜

旅〜 宿もツイ内子へ
乳濁〜 もお魚不 又

稚子も鳴ゆべ。

折〜 可らぬ〜 居まん

抱ケ〜 久ちよの〜 髪付〜

とら〜 中らふこ

ちとひつ〜 以造〜 名ドヤ

根〜 名の菊も羊〜 明きえ

養とあり

尺八子 指ぬ〜 タラ 聯〜

コリヤ〜 ぬま〜 もぬ〜 さまん

馬小きまひ

ふ〜 け〜 来う 遠の毒

チイ〜 ちよ〜 侍〜 貝焼キと

それハマア〜

百の〜 内訓〜 後〜 ぬ〜

私タ一筆云々

男ト也

子捕ケ一筆云々

おるり云々

ソイツと胸お持くと云

云々

まとも年ニトヤ

何レの換コチハ

己レ云々

何トハ云々

送ッ一上キヨと云々

云々

業一まらハ

纏ッ云々

山椒の味

云々

云々

云々

云々

ツイ道具云々

ホシの藤子のおおのふ

細_トかり太_トあり

子ワイ 結_キ又乃 蒙_{ウチ}カエハ

もとゆれをー々_アノ末_カ

フ_トり_カ結_キ

お家さん_ト結_キハ_カり_カせん

あんと_カも_カ手_カ父_カおま_カー_カたり

鳴_カー_カ

霜の降ル_カおち_カ牙_カ子_カあ_カえ

り_カが_カ子_カ今_カ新_カの_カ物_カハ

中_カき_カい

能_カ入_カ耳_カ乃_カ垢_カカ_カり_カあ_カり_カれ

つ_カり_カん_カふ_カ能_カあ_カま_カー_カり_カん

結_キつ_カり_カま_カー_カ玉_カワイ_カあ

ま_カり_カち_カぎ_カり

り_カん_カま_カり_カる_カも

涉_カ掛_カた_カ松_カへ_カ事_カ納_カ仕_カ指_カを

飲_カて_カ仕_カ舞

洞_カ々_カモ_カン_カト_カや_カ先_カ生_カハ

足_カへ_カ噴_カク_カン_カン_カり_カり_カと

昔代の指と造りかたのけと

昔の巻うえ

ちがひなく所中見ゆる

むうがらりそ巻くま

遍照金剛

茶のゆきふのこおやいたる

瀟々ふれましがあよとちや

さあ〜あ

やそり野ふらぬる言下

糸物でかき 白濁りや

教生ふ雨ナ 糸布ノ

そらあはる

内ら〜成つてアあね

ぢり〜うけ巻の傍へ

いま〜ん

はことあう〜く 通作

紙の積ふ今にあ 如女ト

肩がまよふと巴しの御シ

十の字アんと

ようはんぐあ 井戸あが

幕が明いても其疾ぞ工

八宗九宗

二条もぐんぼく江の志で
功徳が有る 其 昔一は

まろくま品

どろの 赤くもすくもや
細らーちつと別々も

産

酒をくほとく 酒屋に
味唯 粥ヒナグのも 水ヒキ 下丸

乃がね

春もすしんもど その罷
新米の 枚り 今より

さしづき

冷えるどやア口ふ 江戸
つりそ 赤ナ 鳴ケ 成りや又

ふどり

大守人トやい 風情
婦さんソナイ 遊ケ かつナ

中かえどや

寝ケたけきト 極ニ^エん^{サキ}

折^レく^レ 此方の飛^キを^レく

ふふふ^カ

何^レが遠^カい^ロふ^ヲ列^ナし^テお

そのクセ己^レし^ト向^ム面^ヲラ

糸小田倉

纏^ル糸^ノトキヤ^ヲち^ヨつ^ト

髪^ノ生^エ糸^ノも^も細^クい^ク

ふき^のぬ

味^イ米^トや^リチ^ト捲^ッガ

やほ^のり^ノ店^をへ^出り^響を

は^のり^ノ

小^簀ほ^ノ糸^ノや^照る^ノや

ゆ^のり^ノま^の五^本う^の

ち^のり^ノ

何^もお^のり^ノれ^遊ば^るふ

名^物と^有り^ヤ足^脱ゴ^を

ち^のり^ノ

歌^ノ止^チかん^をそ^のふ^の

ち^のり^ノ智^工高^と沖^ラ屋^小

ニツよひ

直う 賤スホーは 嘸とけど
そくく 善して おまけと

仁

世にわ 新ううと 乃チ附と
子清は 忘しや 歎と 辱の

礼

乃より 仕とる 新風乃

子ヨと 解カぬ 名キ水と 亦へ

目小み

無ル 亦スカ 五り ころころ

亦 水探ひと ちん 中カ小

蟬の歌

あへも 実イて 遠居ノ

用心グ 子 出 遠めり

二人連

彌 冷と 足しで 付キよめと

裾と 毛も 小も ツイ 式キダ

鐘 既う ぬうト 也 洵 漸 乃の

猪 猴の丹

竹舞と名無瀬が又ヨて
唇ヤガしとよるお無しと

池

白ひがさるかへとるまの
下地りあなと上逆^ホのぞ

羊のりゆみ

モムあふモローや懐物
曾清場もチトアんならうや

竹

深葉^{ウキ}の中うぶ五月雨とや

子ヤくく子ヤ雀^{スズ}メ色^{シロ}のりや

籠^{カゴ}う喰^クらり

藤^{フジ}と五六抱^{ハか}持^もくうや

深^シ切^キ深^シもまらうとひ

柳^{ヤナギ}三^ミハ三^ミトカイ^カやうと

江戸

藤^{フジ}葉^ハザハ^ハ州^{シウ}や^ヤ行^{ユキ}とる

無^ム葉^ハキ小^コ凌^{リョウ}ム^ム魚^{イサ}麻^マ又^マ

おんひうき

モウ^{モウ}汲^ヒよらん^ン花^ハの井^イを

イツチ葉一也ヤイノレダ
石拾ひ

これハ室戸十の書カキ
後士川のふり 休ガダ

眠りと覺

月よりとさうとのゆも
實ツツ山がツツる鳥ヌヤも

赤小橋

おきよのつね中
刺りたけり、あまの菖

雅

流し船 源川

枕を夢乃 流し

西百羅漢

皆ナカとまりを以裏
草 堀へちと納メんと

五うけ

己と大根の梅キ出
あくら だうけ

町チ

りんごもかきつけと成らん

サア知れト赤府持チあされ

完不吸柱ラ

黄^{タテ} 破^{タテ}〜イタラ能うろナア

中らあ〜一房^{タテ}お出知し

疎りまの

今維子の聲^{タテ}フト耳一子

それら何〜あを髪切ぢも

け〜あぢも

果^{タテ}〜トヤアイガ肉の感

信コフ門^{タテ}まぢも房〜タモヤ

まぢを抜去

お越〜うき〜お〜もも

鳴〜ん日^{タテ}のま^{タテ}とナト

別^{タテ}の〜

ワイあ^{タテ}のま^{タテ}ん斗^{タテ}り〜

姉^{タテ}か〜つけ^{タテ}る^{タテ}ふ^{タテ}コリヤ

味^{タテ}〜

押^{タテ}モ^{タテ}ヒ^{タテ}ト^{タテ}ま^{タテ}う^{タテ}ら^{タテ}喰^{タテ}ハ^{タテ}様^{タテ}を

ツツを^{タテ}あ^{タテ}〜の^{タテ}直^{タテ}ふ^{タテ}成^{タテ}〜

まんじりして

耳に掻く音トヘツイ耳が

志似イも何トや改タする

見做キまう

古錢出してる 貧乏イ

どやを別家仕て元也

中ドめふ形

土瓶買入あつ 珍出を

物一ふつイあかたで

ヤリくと

旦那さんの指小搦でナへ

なうきしよるあいの

ア 酒つゝこそ曾我も又

集の一藝トや引りも

落る狼藉

その跡よこの女の御

そらあつまう

何ぞ乃 友松ノでもイ其ハ

沖のが如き女息キ杖小

ホロイナる危桶のトを

らつとんマア

折角ク熱イ幸抱し

吾輩もよろうつて

ふそれ南ぞそんぶ

何ふたへん

柳も鼻の水面像

折中肉う戻ど

あり目ふうけ

君んふたへん

よん衣トヤナアひつ

内方水後レヤカふ

カキミカ

中てまされ

知らんを未顯

つて

店ぐ欠ク

二タト

ほき

紙紙が

流乃三砂や

机ふあうひ

○手八

空浪の姫トヤセアイラ皆ナ
學シホう 後シホツケチヤトおくれ

そんあつるり

キレいふ体ていとあつらやそ
ツレと仕ヤルとあつら

氣あんど家

青い墨も子こが扱あす
扱あす 著し一い箱はことつつののり

白しろままくく...

ケニカチイナヘモウおカコ

鼓つづみととままいととゆゆつつししを

アあんんめめりり

七人しちにんここううりりもも勢せいケケぬ

角かくのの目めかかよよしし舞まタタラ

ちちりりらららら

久くもも堀ほりががああけけととよよる

ピピとともも鳴ならんらん離はなれれままん

今いまははままでで

竹たけふふ自みづかりりててすすああ

○手八

兄^{アニ}の崩^{クズ}と洞^{アノ}〜

てより我^ワお

浮^ウやきよるん〜ア酒^{サケ}を

来^キ〜る向^{ムカ}へ松^{マツ}人^トが

又^{マタ}此^{ココ}宿^{ヤド}下^カア、お娘^{メグ}

志^シ〜り〜

何^{ナニ}の時^{トキ}トヤイふ言^{コト}〜

耳^{ミミ}〜お腫^{ハレ}ブおきん〜

大^{オホ}序^セトヤ持^ヒ〜おま〜の

志^シ〜り〜

おぶさり〜ので風^{カゼ}凌^トギ

洞^{アノ}房^{ボウ}忌^{イミ}小^コチト流^ハ〜おけ〜

何^{ナニ}と云^イひ人^{ヒト}がね〜お小

ぼ〜り〜

葛^{クワ}藤^{フドウ}抛^ナらんをよかり場^バか

真^{マコト}方^{カタ}々^々今^{イマ}と扱^ア〜ア森^{モリ}〜

用^{ヨウ}心^{シン}〜

流^{ナガ}〜る〜の兵^{ヘイ}那^ナ〜んの

已^マ〜出^デ〜木の芽^{キノコ}浮^ウ〜と方^{カタ}お

掛^カ〜お〜る〜も置^{オキ}〜へ〜

カラケ有る

ツイちろろとぬえ賀の脚
細くあつとぬえコ 猿居る

波う小艇

おまろんっまッその節あ
戦布 燈ふたうまヒヨをカイ
以座ふたのくおア人うで

爐ふよめく

冷ヤレスけどようゴレシヨ
とくドや新居をきうらん

社ヒシイのヒシイ番

列ヒシイ當ヒシイ職ヒシイハ 毎ヒシイ夢ヒシイガ
うけと鏡ハ尺取寸

今ヒシイがヒシイ中

系ヒシイ歌ヒシイくヒシイ以ヒシイたるヒシイ方ヒシイがヒシイけヒシイつヒシイく
経ヒシイ漢ヒシイもヒシイおヒシイよヒシイそヒシイぬヒシイ月ヒシイ々ヒシイ流ヒシイる
骨ヒシイ子ヒシイ後ヒシイめヒシイ追ヒシイテヒシイけヒシイ味ヒシイ々ヒシイで

魁ヒシイ々ヒシイ々ヒシイ

氣ヒシイをヒシイ付ヒシイ々ヒシイ貴ヒシイいヒシイ井ヒシイリヒシイトヒシイヤ
今ヒシイ々ヒシイとヒシイ祝ヒシイ儀ヒシイをヒシイうヒシイぐヒシイえヒシイうヒシイ

ふふつ

惚きききあんとドウあきる
又私タ〜等の思案しども

白ひつ

鼻う輩自小同家のトドヤ
今仕〜等々何とトドヤロカ

めくまふ

び下粒フ又何と何子
車中〜中を骨〜も

冠附名取津島終

安政五年

發行

大阪書林 敦賀屋彦七

同 河内屋和助

堺書林 本屋伊三郎

大阪書林 茨木屋藤七

